

令和 6 年 6 月 2 6 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K03037

研究課題名（和文）リスニングにおける 診断的指導法に基づく教員養成と教材開発

研究課題名（英文）Teacher Training &amp; Teaching Material Development Based on Diagnostic Instruction Methods in EFL listening

研究代表者

上田 眞理砂（Ueda, Marisa）

立命館大学・経済学部・教授

研究者番号：90309089

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000 円

研究成果の概要（和文）：1)大学におけるリスニング指導の現状調査。中・高校で40年以上も前の旧態依然のリスニング『指導』を受けていた。理論に基づかない指導法である放置・丸投げをされるので、どこから始めたら良いのか、自分の弱点を知りたい、といった要望があることが明らかになった。2)リスニング教材の現状調査。2010年から2019年に出版されたリスニングに関する教科書100冊以上を調査したが、ストラテジーを活用しての指導がなされている教科書は皆無に近かった。3)英語教員研修カリキュラムの現状調査。文部科学省の外国語指導要領には「聞く」ができるように指導するとあるが、具体的な指導や訓練内容の記述はない。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義についてはAnderson (2010)やSchneider & Shiffrin (1977)の理論が正しく、実践を目的とした場合においても活用できることを明らかにした。リスニングにおける学習者の弱点を可視化し、聞き取れなかった原因の特定、原因別の対処法を明らかにしたことである。本研究における社会的意義は、多くの学習者が抱えている「何故聞き取れないのか」「どうすれば良いのか」という問題に答え、具体的な学習方法を明らかにしたことである。医学のように問題部位を可視化し、原因を特定し、「治療」当たるという研究成果の社会的意義高いと考えている。

研究成果の概要（英文）：1. Investigation of the Current State of Listening Instruction at Universities: It was revealed that students had been receiving outdated listening 'instruction' at junior and senior high schools for over 40 years. Due to the "neglect and delegation" approach, which is not based on any theory, students expressed a desire to know where to start and to identify their weaknesses in listening in English. 2. Investigation of the Current State of Listening Materials: Over 100 textbooks on listening, published between 2010 and 2019, were examined. It was found that hardly any of these textbooks incorporated instruction based on listening strategies. 3. Investigation of the Current State of English Teacher Training Curricula: Although the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology's foreign language teaching guidelines state that instructions should enable students to "listen," there is no specific description of instructional or training content.

研究分野：Applied Linguistics

キーワード：リスニング 英語 応用言語学 日本人英語学習者 audio perception word recognition 外国語学習

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1 . 研究開始当初の背景

研究開始当初、英語によるリスニングの研究領域では、ストラテジー（コツ、ノウハウ）を指導すれば 能力が向上するという研究論文が数多く出ていた。同時に、研究開始である 2010 年代後半までの過去 30 年間で、音声の録音・再生技術は格段に向上していた。一方で、リスニング指導法には顕著な進歩が見らず、「間違ったところや分からないところがあったら、分かるまで何回も聞いておきなさい」と、学習者に丸投げをしていた。

研究代表者は研究開始時点で 22 年間、大学で教鞭をとっており、毎年 4 月に、どのようなリスニング指導を受けてきたのかを受講生に聞いてきた。すると大半が、解答やオーディオ・スクリプト（音読された英文を文字で表したもの）訳、単語表などが配布され、「間違ったところをわかるまで、何回も聞いておきなさい」といった、学習者に丸投げのような「指導」を受けてきたという。これは、申請者が中学・高校生であった 1980 年代の指導法と全く同じで、30 年以上を経てもリスニング指導法は、全く変化していないのが現状であった。

## 2 . 研究の目的

研究代表者は博士論文(2014 年提出)で、人間の情報処理理論や言語理解理論を基に、学習者の現在の能力に最適の診断的、かつ科学的に効果のある(統計的有意差がある)英語によるリスニング指導法を研究結果として発表した。学習者の現在の能力に応じた診断的、かつ科学的に効果のある具体的な英語によるリスニング指導法やそれに基づいた教材開発の報告はこれまでになかったため、本研究では、診断的・科学的リスニング指導法に基づいた教材開発と、学習者がどの段階で理解に至らなかったのか、原因や対処法をピンポイントで指導できる教員養成を目的とした。

## 3 . 研究の方法

本研究計画の目的を遂行するために、以下の 3 つの調査を順々に実行した。

- 1) 大学におけるリスニング指導の現状調査
- 2) リスニング教材の現状調査
- 3) 英語教員研修カリキュラムの現状調査

<2017 年度>診断的リスニング指導法に基づいた教材開発を目的として、リスニング教材の現状を調査し、明らかにした。

<2018 年度>学習者の現在のリスニング能力に最も適した診断的、かつ科学的に効果のある(統計的有意差がある)リスニング指導法を用い、学習者がどの段階で理解に至らなかったのか、原因や対処法をピンポイントで指導することができる教員養成を目的として、英語教員研修カリキュラムの現状を調査し、明らかにした。

<2019 年度、2020 年度、2021 年度>外留及び COVID-19 の影響で研究進捗が大きく影響を受けた。人間の情報処理理論や言語理解理論を基盤とし、学習者の現在のリスニング能力に最も適した診断的、かつ科学的に効果のある(統計的有意差がある)リスニング指導法を基にした教材開発をし、教員・学習者の双方が無料で利用できる website を開設した。<http://listening-marisa.com>



<2022 年度及び 2023 年度>COVID-19 の影響で研究進捗が大きく影響を受けた。2017～2019 年度に実施した調査結果や 2020 年度に開発したリスニング教材を基に、学習者がどの段階で理解に至らなかったのか、その原因や対処法をピンポイントで指導することができる 教員養成を目的として活動した。上智大学、鳥取大学、JALT(筆者所属学会の)鳥取支部、関西大学、JALT 札幌支部より要請があり、出張講座を実施した。

#### 4. 研究成果

##### 1) 大学におけるリスニング指導の現状調査の実施

大学生は、中学や高校で、旧態依然のリスニング『指導』を受けていた。旧態依然のリスニング『指導』法とは、筆者自身が中学生や高校生であった 40 年以上も前の指導法である。古いことが問題なのではなく、理論に基づかない指導法であり、学習者に丸投げをしている『指導法』が問題である。「丸投げ法」とは、「わからないところや間違ったところは自宅でわかるまで何回も聞いておきなさい」という放置・丸投げ法である。40 年以上、変化がないことが明らかになった。放置・丸投げ」をされるので、当然学習者は、「リスニングを学習する上で困る」「不安に思う」「知りたいことがある」わけで、リスニング能力向上のために具体的にどこから始めたらいいのか、リスニングにおける自分の弱点を知りたい、といった要望があることが明らかになった。

##### 2) リスニング教材の現状調査

2010 年～2019 年に出版された大手教科書会社 10 社からリスニングに関する教科書 100 冊以上を購入・取り寄せてリスニングを専門とする研究者の視点から、リスニング・ストラテジーを活用して学習者のリスニング能力向上を目的として執筆されている教科書は皆無に近かった。教

員用に、印刷してすぐ使用できるリスニングのプリントも作成した。教員用だけでなく、学習者向けにもリスニング能力向上のために必須であるリスニング・ストラテジーを活用するさまざまなリスニング問題を作成し、プリントも作成した。これらは Website(<http://listening-marisa.com/>)で公開されている。

### 3) 英語教員研修カリキュラムの現状調査

文部科学省の外国語指導要領には「読む・書く・聞く・話す」ができるように指導する、とあるが、具体的に何からどうリスニングを指導したら良いのかという訓練を受けた教員は日本では皆無である。よって、各教員は自己流で『指導』しているので何年経っても自信が持てない。筆者の推奨する理論とエビデンスに基づく指導法であれば、段階を経て学習者の能力を少しずつではあるが確実に向上させることができることを様々な online 学会で広報してきた。

# 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Marisa Ueda	4. 巻 8, Issue 8
2. 論文標題 How to Visualise Weak Points in Listening in English	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Bulletin of the JALT Mind, Brain, and Education SIG	6. 最初と最後の頁 41-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 2件／うち国際学会 8件）

1. 発表者名 Marisa Ueda (Dr)
2. 発表標題 大学教員がリスニング指導に関して悩みに思っていること
3. 学会等名 第4回 The Japan Association of Applied Linguistics (JAAL) in The Japan Association of College English Teachers (JACET) 2021 （国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Marisa Ueda (Dr)
2. 発表標題 Effective Teaching Methods in EFL Listening for Intermediate Learners Based on Theories and Evidence
3. 学会等名 TALC 4 (Theoretical and Applied Linguistics)（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Marisa Ueda (Dr)
2. 発表標題 ポストコロナを見据えたリスニング指導法
3. 学会等名 大学英語教育学会(JACET)関西支部大会
4. 発表年 2021年

1．発表者名 Marisa Ueda (Dr)
2．発表標題 Diagnostic EFL Listening Teaching Methods Based on Theories and Evidence
3．学会等名 全国語学教育学会(JALT) 国際大会（国際学会）
4．発表年 2021年

1．発表者名 Marisa Ueda (Dr)
2．発表標題 A Consideration on Teaching Methods of EFL Listening for Intermediate Learners Based on Theories and Evidence
3．学会等名 英国応用言語学会 British Association for Applied Linguistics(BAAL)（国際学会）
4．発表年 2021年

1．発表者名 Marisa Ueda (Dr)
2．発表標題 診断的リスニング指導法：リスニング指導に自信が持てる方法
3．学会等名 第60回 大学英語教育学会(JACET)国際大会（国際学会）
4．発表年 2021年

1．発表者名 Marisa Ueda (Dr)
2．発表標題 How to Instruct EFL Listening Diagnostically
3．学会等名 JALT PanSIG 2021 Conference（国際学会）
4．発表年 2021年

1．発表者名 Marisa Ueda
2．発表標題 How to Instruct EFL Listening Diagnostically
3．学会等名 JALT PanSIG 2021
4．発表年 2021年

1．発表者名 上田眞理砂
2．発表標題 理論とエビデンスに基づいたリスニング指導法
3．学会等名 大阪大学主催 公開講座「教員のための英語リフレッシュ講座」（招待講演）
4．発表年 2018年

1．発表者名 上田眞理砂
2．発表標題 理論とエビデンスに基づいた診断的リスニング指導法
3．学会等名 大学英語教育学会(JACET) 第57回国際大会（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 上田眞理砂
2．発表標題 理論とエビデンスに基づいた診断的リスニング指導法
3．学会等名 全国語学教育学会(JALT) 第44回国際大会（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 上田真理砂
2．発表標題 理論とエビデンスに基づいた科学的に効果のあるリスニング指導法
3．学会等名 立命館大学 言語教育情報研究科 講座
4．発表年 2017年

1．発表者名 上田真理砂
2．発表標題 科学的な裏付けのある診断的リスニング指導法
3．学会等名 大阪大学大学院言語文化研究科公開講座 「教員のための英語リフレッシュ講座」（招待講演）
4．発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

理論とエビデンスに基づいた効果的なリスニング指導法・学習法について、これまでの研究結果を具体的にわかりやすく教員と学習者双方に向けてのwebsiteを作成・公開（2024年6月現在、公開中ではありますが、加筆・修正を加えた最新版が同年7月に公開予定）  
<http://listening-marisa.com/>

6．研究組織			
	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件



8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------